

博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

1. 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
2. 研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

- 第35回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を実施した(7月9～20日、受講者30名)。
 - ・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行った。
- 平成29年度に実施した第33回博物館・美術館等保存担当学芸員研修受講者の所属長あてに、研修成果の活用実績やカリキュラム、応募手続き等に関する要望を問うアンケート調査を行った。
- 平成30年度保存担当学芸員フォローアップ研修－展示・収蔵環境の正確な把握のために－を実施した(6月25日、参加者102名)。
- 研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、当研修が有意義であるとの回答が100%であったことから、業務に活用されていることが確認できた。



ケーススタディの様子

○*吉田直人、○**佐野千絵、倉島玲央、小峰幸夫、早川泰弘、犬塚将英、佐藤嘉則、朽津信明、早川典子、北河大次郎、石田真弥(以上、保存科学研究センター) *6月まで **7月から

文化財の収集・保管に関する指導助言(シ)

平成30年度は以下の組織等において指導助言を行った(28件)。

1. 実践女子大学香雪記念資料館・京都工芸繊維大学美術工芸資料館「記録された日本美術史—相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」開催に関する協力・助言
2. 静岡県立美術館の特別展「幕末狩野派展」の事前調査に関する協力・助言
3. 山口県立美術館の特別展「雲谷等顔展」の事前調査に関する協力・助言
4. 鳥取県立博物館の特別展「土方稲嶺展」の事前調査に関する協力・助言
5. 東京藝術大学大学美術館の購入資料選定に関する協力・助言
6. 岩手県宮古市文化財調査に関する協力・助言
7. 八尾市史編纂のための文化財調査に関する協力・助言
8. 韓国国立中央博物館所蔵作品復元計画に対する協力・助言
9. 日本民藝館所蔵作品修復に対する協力・助言
10. 南蛮文化館所蔵作品の維持管理に関する協力・助言
11. 日本二十六聖人記念館所蔵作品の維持管理に関する協力・助言

以下、所蔵作品調査に関する協力・助言

イギリス・イーストアングリア大学セインズベリー視覚芸術センター、同・大英博物館、同・オックスフォード大学アシュモリアン美術館、同・ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、同・王立コレクショントラスト、シンガポール・アジア文明博物館、同・国立遺産保護センター(HCC)、静岡県立美術館、神奈川県立歴史博物館、仙台市博物館、逸翁美術館、鳥取県立博物館、神田日勝記念美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、川越市立博物館、東京大学総合研究資料館、浦添市美術館、長崎歴史文化博物館

無形文化遺産に関する助言(ム)

- 無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。
- ・文化庁への助言(国指定等文化財の保存及び活用に関する調査 6/25・28・29・30・9/10・11 千葉県・熊本県・福岡県・京都府・滋賀県、文化庁伝統工芸用具・原材料調査委員会 10/10・3/15 文化庁、文化審議会文化財分科会 6/27・3/19、文化審議会無形文化遺産部会 5/25・12/6、無形文化遺産に係る会議 9/7、新進芸術家育成事業に関する会議 2/4 文化庁、伝統文化親子に関する会議 3/6 文化庁地域文化創生本部)
 - ・神奈川県への助言(1/30 神奈川県民センター)
 - ・滋賀県への助言(1/31 大津市立市民文化会館)
 - ・鳥取県への助言(2/23 鳥取市人権交流プラザ)
 - ・島根県への助言(2/7 博物館)
 - ・愛媛県への助言(4/26 愛媛県庁)
 - ・京都府京都市への助言(4/5・7/4・8/6・9/17・2/3・4 京都芸術センター)
 - ・東京都武蔵野市への助言(武蔵野市文化財保護委員会 4/17・5/22・7/10 武蔵野公会堂・武蔵野ふるさと歴史館)
 - ・神奈川県箱根町への助言(6/15・26・7/15-16・23・10/1・11/21・2/28・3/27 箱根町)
 - ・独立行政法人日本芸術文化振興会への助言(国立劇場文楽専門委員会 6/12・3/15 国立劇場、国立劇場文楽賞選考会議 3/6 国立文楽劇場、民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員会 6/5・16・11/10・1/26・3/2・3/9・3/22 国立劇場)
 - ・公益財団法人東京都歴史文化財団への助言(第50回東京都民俗芸能大会 3/23・24 東京芸術劇場)
 - ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への助言(5/19・6/6・7/2・8/20・11/1)
 - ・一般財団法人日本青年館への助言(第67回全国民俗芸能大会企画委員会 4/9・9/3・11/23・24・2/12 日本青年館)
 - ・さぬき(2/10 香川県社会福祉センター)

文化財の虫菌害に関する調査・助言(ホ)

目 的 これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から生物被害対策の技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献する。

成 果 主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺等の文化財保存担当あるいは文化財修復工房等であった。平成30年度の対応件数は、合計で44件であり、その中には派遣依頼等を受けて現地にて調査を実施したものや当研究所にて分析試験等を実施したものなど、より詳細な調査が必要な事案もあった。

虫菌害の相談内容は、保存公開施設内における害虫やカビの発生に関すること、殺虫・殺菌処理で使用する薬剤に関することなどが多かった。また、熊本地震に起因する石室内への漏水の対策から石室内に大量にカビが発生した事案もあり、詳細な微生物解析を継続している。あるいは社寺で空調機器がない収蔵空間で保存されている文化財が高湿によりカビが発生するといった事案もあり、現地で取り得る対策を継続して模索している。被害の規模は文化財展示収蔵施設全体に関する事柄から、個別の作品に対する事柄まで多岐にわたった。そして、災害に起因する文化財の水損被害とその初期対応など緊急性を伴う事案にも対応した。

現場の対応と併せて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を担当した。その際

にこれまでに作成した啓発普及ポスターの配布を行った。

研究組織 ○佐藤嘉則、小峰幸夫、佐野千絵(以上、保存科学研究センター)

保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

文化財の修復及び整備に関する調査・助言(ホ)

目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。

成果 1. 平成30年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、国宝白杵磨崖仏、国宝銅造阿弥陀如来坐像(鎌倉大仏)、国宝平等院鳳凰堂、国宝東寺五重塔、国宝普濟寺六面石幢、史跡端島炭鉱跡、史跡竹原古墳、史跡石人山古墳、史跡桜京古墳、史跡薬師堂石仏附阿弥陀堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡原城跡、史跡土佐藩主山内家墓所、史跡清戸迫横穴、史跡吉見百穴、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡萩反射炉、史跡原爆ドーム、史跡東京湾要塞跡、史跡出島和蘭商館跡、史跡下藤キリシタン墓地、史跡長崎原爆遺跡、重要文化財通潤橋、重要文化財本河内水源地水道施設、重要文化財旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設、重要文化財氷川丸、重要文化財日本丸、重要文化財常願寺川砂防施設、重要文化財東慶寺文書、重要文化財末広橋梁、重要文化財巖島神社大鳥居、重要文化財旧鶴岡警察署、重要文化財近代教科書関係資料、重要文化財法隆寺金堂外陣旧壁画(土壁)、重要文化財細川家舟屋形天井画、重要文化財鎌倉芳太郎資料、重要文化財鷹見泉石関連資料、重要文化財旧木下家住宅、名勝錦帯橋、東山ひがし重要伝統的建造物群保存地区、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物郷村断層、熊本県内被災古墳。

2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

登録有形文化財森村橋、日本航空協会所蔵「飛燕」、根津美術館蔵石造浮屠、慶応義塾大学蔵計算機、東京国立近代美術館所蔵近代絵画、富山市大山恐竜足跡化石群、大阪新美術館準備室所蔵関根正二作品、高島市指定絹本著色釈迦十六善神像、岡山県高野神社神紋、長崎市指定史跡ド・口神父大平作業場跡、「高風居」泰山荘。



熊本地震で被災した井寺古墳内部

研究組織 ○朽津信明、北河大次郎、早川典子、倉島玲央、佐野千絵(以上、保存科学研究センター)

文化財の材質・構造に関する調査・助言(ホ)

目的 様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。

成果 平成30年度は、蛍光X線分析、X線回折分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

1. 材質調査

- ・建造物彩色・付着物(平等院、2018(平成30)年5月)
- ・装飾経(根津美術館、2018(平成30)年5月)
- ・典籍(書道博物館、2018(平成30)年5月)
- ・屏風(明治神宮、2018(平成30)年6月)
- ・屏風(仁和寺、2018(平成30)年6月)
- ・漆工品(畠山記念館、2018(平成30)年8月)
- ・漆工品(徳川美術館、2018(平成30)年8月)
- ・典籍、金工品(個人蔵、2018(平成30)年8月)
- ・金箔・蒔絵粉(中尊寺、2018(平成30)年12月)
- ・歴史資料(文化庁、2019(平成31)年2月)
- ・工芸品(2019(平成31)年2月)

2. 構造調査

- ・絵画(ポーラ美術館、2019(平成31)年2月)

3. 指導・助言

- ・絵画の光学調査(ポーラ美術館、2018(平成30)年4月)

以上、調査・助言件数 13件

研究組織 ○犬塚将英、早川泰弘(以上、保存科学研究センター)

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言(ホ)

目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。

成果 1. 国指定品の所有者以外による公開、また公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査を37館に対して行い、計39通の報告書を作成・提出した。

秋田市立千秋美術館、熊本県立美術館、群馬県立歴史博物館、樂美術館、京都国立近代美術館、笠岡市立竹喬美術館、鹿児島市立美術館、大分市美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、和歌山県立近代美術館、一般財団法人筆の里振興事業団、公益財団法人泉屋博古館、松戸市立博物館、

公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館、新居浜市教育委員会、一般財団法人林美術財団名都美術館、田部美術館、堺市博物館、都留市博物館〔ミュージアム都留〕、くまもと文学・歴史館、フォッサマグナミュージアム、長崎県美術館、国文学研究資料館、刀剣博物館、北海道立帯広美術館、中之島香雪美術館、三内丸山遺跡縄文時遊館、書道博物館、徳川ミュージアム、神奈川県立歴史博物館、福島県立美術館、熊本博物館、浜松市美術館、東京都美術館、東京富士美術館、高知城歴史博物館

2. 全国の文化財施設等からの保存環境、また新築・施設改修・増築などの相談に対して助言を行い、改善に資した。必要に応じて、現地調査を行った。

研究組織 ○*吉田直人、○**佐野千絵、石井恭子、小安友里恵（以上、保存科学研究センター） *6月まで **7月から

保存科学研究センター

2-(5)-④-1)

東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進(ホ)

目的 連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

- 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進
・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)

成果 ○平成30年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位 吉田直人・佐藤嘉則・朽津信明 19名（聴講1名）

修復計画論（前期、木曜1限） 2単位 朽津信明 8名

修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位 早川泰弘・早川典子 12名

保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位 犬塚将英・佐藤嘉則 6名（聴講1名）

文化財保存学演習

テーマ：「色を測る」、講師：朽津信明 日時：6月5日(火) 13～17時 21名



保存環境計画論の授業風景

○入学試験

平成30年度東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程）入学試験を実施し、9月19～21日に入学試験及び面接を実施して、合格者1名を決定した。

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議（11回）、入試合同判定会議（2回）、博士・修士学位審査会への協力

研究組織 ○朽津信明、早川泰弘、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則、早川典子（以上、保存科学研究センター）、安倍雅史（文化遺産国際協力センター）、貴田啓子（東京藝術大学教育研究助手・客員研究員）